

教室の窓から

令和 6年
(2024年) 2月
來須 真紀

今回は少し視点を変えて

今回は少し視点を変えて、「学校のあれこれ」ではなく、教員から見る学校あれこれと母親から見る学校あれこれも違いについて一例をあげてみたいと思います。※注！！これはあくまでも一例であり、私の個人的な考えのみではないということを付け加えておきます。

学校からのプリントあれこれ

学校からは毎日のようにたくさんのプリントが配られ、連絡事項が書いてあります。



プリントは学校と家庭をつなぐ大切なものだから、学校での様子や連絡事項をしっかり書かなきゃ。主任や管理職の点検もあるから時間がかかるけど、頑張らなきゃね。でも正直しんどいな。時間かかるな。

きょうだい3人だとプリントも×3で、目を通すのも時間がかかるわあ。同じプリントも3人分持って帰ってくる。あら、このプリントだけが持って帰ったんだっけ？そして、随分先までの連絡まで書いてあるのね。忘れちゃいそう。忘れちゃいけないって思うとちょっとプレッシャートホ



音読の宿題あれこれ

毎日の宿題。大切なのはわかります。毎日添削する先生が大変さもわかります。家庭学習の習慣もつけてほしい。それもわかります。



音読は、学力の基本よ。どこかの脳科学者も言っていたけど、音読を毎日することで脳の発達も促されるから、しっかり取り組んでいかなきゃ。そのためには、ご家庭にお願いすることも大切。家庭学習の習慣をつけてもらわなきゃ。

音読は、学力の基本よ。分かってる。どこかの脳科学者も言っていた。音読で脳の発達も促されるって。でも、嫌がる子どもたちに毎日音読と計算カードの点検。点検項目もたくさんあるのね。。しかも×3。きょうだい同士でさせると必ず喧嘩勃発



授業参観あれこれ



授業参観が一番怖いよね。保護者の方々は学習指導要領のことなんて分からないだよから、活動の意図は伝わりにくし。。わが子のことを中心に見られる。だから全員が活躍できるような内容考えないとね。発表とか討論とかそんな企画がいいかしら。てか、参観日多いよね。毎月毎月悩んでしまうわ。あ、来月なんて授業研究会もあるから大変。忙しくなるわ

え、今月もまた参観日？さすがに月1回の参観日は、仕事休むの申し訳ない。参観日いかなかったら子どもたち残念がるし、私も子どもたちの様子見たいし。困ったわ。そういえば見に行った時の授業って結局何を学習したのかしら。なんだか特別な発表とか活動ばかりで、普段の子どもたちの様子ってよく分からないわね。正直、参観授業って退屈なのよね。



子ども同士のトラブルあれこれ



学校でのトラブルは、おうちの方も心配されると思うから、学校で解決しなきゃ。あーでも、このトラブル。地域の活動や放課後の子どもたちの関係ともからんでいるわ。複雑ね。学年主任は「学校外のことは、ノータッチでいなきゃ仕事が増えるだけだ」って言うし、生徒指導の先生は「家庭や地域から情報を集めて、サポートしないと」って言うし。とりあえず、ご家庭に報告しないといけないのに何が事実か分からないわ。

え？うちの子が学校でそんなことしたの？原因は何かしら？そういえば、こないだの子ども会の行事の時に子どもが何か言っていたわ。関係しているのかしら？放課後のことや子ども会のこと学校を頼るわけにはいかないし、困ったわ。また、あのお母さんに謝らなきゃいけない…。でも、うちの子だけが悪いのかしら…。なんだかモヤモヤするわ。



立場変われば…？

立場が変われば感じていること考えていることがわかるのは、当然のことです。自分自身もこんなに感じ方が変わるとは思ってみなかつたです。どちらが悪いとも良いというわけではなく、立場が変わると見ている視点が違ってくるとのことだと思います。学校は、子どもたちを集団として見るのが多く、また、学力の保障という観点で言えば、子どもたちの未来(高校受験に向けて)みていることが多いのだと思います。一方母親というのは、子どもの将来はもちろん大事。だけど家族との日常、今は切実な問題。このような視点の違いが、一つの物事をみるにあたっての違いになっていくのだろうと思います。だからこそ、お互い話をし、お互い妥協点を見つけることが大切なんだと思います。学校には柔軟さ、家庭には踏ん張る力が、あればいいのかな？ 皆さんは、どう思われますか？